

## 四谷の

# 千枚田だよ



第99号

「鳥獣害から棚田を守る」ねらいの農作物の

## 棚田サミット報告

第十七回全国棚田(千枚田)サミットが徳島県上勝町で開催され、鞍掛山麓四谷の千枚田から十五名が出席、全国の棚田保全関係者等から情報を収集、横の繋がりを広めた有意義なサミットであった。

上勝町は人口千九百四十人、高齢化率四十九割、過疎と高齢化が同時に進行している四国で一番小さな町であるが、中山間の立地条件を最大限に活かした「つまもの」の生産では全国に名を馳せている。

二十八日、上勝中学校の体育館を会場にオープニングではサミットテーマソング「棚田へ行こう」を上勝小学校児童の合唱で開会。児童による上勝町の取り組み報告、上勝町の棚田紹介(徳島大学客員教授)があった。基調講演は飯泉嘉門徳島県知事による未来(つなごう)棚田は日本の宝物(農山村(ふるさと)からのメッセージ)が講演された。

午後の分科会は上勝町は町も小さく収容施設もないため、移動分散して午後二時からテーマ①②③④に分かれて行われた。①棚田の保全

被害が深刻化している。分科会では被害が急増しているシカ害に焦点をあて、議論された。出席者 小山

泰弘・古田久夫 知見:他県における捕獲報償費が高価格である。②棚田の価値「景観、歴史、生業、空間等の価値を学ぶ」ねらい:棚田は食糧生産、国土保全、保水、水源涵養、

洪水調節、景観、交流活用など多面的機能・価値を持つ。上勝町は多雨地にも拘わらず二百年以上も変化していない希有な土地であること

を題材に「棚田を守る価値着目して議論された。出席者 原田武典・今泉雅男・原田英壽・稲熊政人・松下誠 知見:森林管理の充実が災害を起

こさない。④棚田と酒「酒づくりを紹介した主体的、継続的な棚田保全活動」ねらい:棚田地域での新たな価値創造アプローチの観点から、酒

づくりを紹介した主体的、継続的な棚田保全活動が議論された。出席者 高橋孝行・内藤成志・丸地光代・高橋さだ子・古田みつ子・小山こは

る・小山舜二 知見と意見あまり、納得した知見は得られなかった。意見として棚田の厳しい現実と遊び

心で棚田の耕作は無理である。と主

張したところ交流会で全国の地に足のついた多くの百姓仲間から同意・同感を得た。



交流会では全国のお馴染みとなった百姓連中や棚田保全の立役者 中島先生やふるきやらの石塚さん、高橋久代さん、棚田ネットワークの高野さん、木戸さん、また、久々にお腹のちいさい石井ルポなど、大勢と歓談できた。ただ、淋しかったのは限定五百人に限られたためか、会える人に会えなかった(姥捨の棚田など)のがやや心残りであった。

二日目(二十九日)の現地視察は①檜原地区【重要文化的景観指定】(原田武典、小山舜二)②八重地地区【日本の里100選】(村雲伸一、今泉雅男、原田英壽、内藤成志、丸地光代、

小山こはる)③市宇地区【天上の楽園】(高橋孝行、稲熊政人、高橋さだ子)④田野々地区【かおり風景100選】(小山泰弘・古田久夫・松下誠・古田みつ子)の四か所に振り分け、情報を収集した。

檜原の棚田は集落下に点在、耕作放棄地、休耕地が目立ったが、重要な文化的景観に指定されており、今後も指定地の拡大を目指している。



四谷の千枚田も「重要文化的景観」指定の要素は十分に備わっていることから一刻も早い指定を望みなさい。と多くの関係者から後を押された。(参考:重要文化的景観についての詳細は「四谷の千枚田だよ」第五十一号に提言、掲載した)

## はね込み特別出演

十一月五日〜七日、全国民族芸能学会・まつり同好会五十周年記念大会が新城観光ホテルを会場に開かれた。

大会参加者の見学会の一環として五日に「身平橋のはねこみ」、「大海の放下」が、六日には「鳳来寺田楽」、「黒沢田楽」、「田峰田楽」がそれぞれ出演、大会に華をもたせた。



まつり存続の危機は何処でもみられ保存会を設立、どうにかこうにか継承しているところが多い中、私たちの村は戦中、戦後の物資不足の時代でも昔からの姿、「西組共進連」として若い衆を柱に、中老衆念仏で継続している。本日も二十八戸のなかで二十三人が参加。盆になれ

ば里帰りを交え、若い衆だけでも三十人を超し、盛大に催される。

四谷の千枚田を守る力が念仏踊りの継続、継承にも繋がるものと信じてやまない。と解説した。

## 三遠南信サミットに出席して

十月二十四日、二十五日、第十九回三遠南信サミットが浜松がアクロシティ浜松を会場に開催。小山舜二が出席した。全体会に先立ち、午前中に開かれた圏域で活動する住民団体による意見交換会「三遠南信地域住民セッション」では、市民レベルの社会的事業の連携を進めようと、地産地消連携、歴史文化の観光交流・エコツーリズム連携、市民連携の情報交流について意見交換した。○「歴史的文化には食文化が共にある。これを次世代に引継ぎ、広い地域に広めていきたい」○農家連携によって信州の食文化「新しい時代の塩の道を作っていく」時期になったのではないかと等々の提案があった。三遠南信自動車道の開通を見据え、山間部を中心とした連携の深まりを促進、期待する声が多い中で情報収集力やブランド力の向上を促進、期待する声が多かった。

## 横浜ゴムに薫出荷

横浜ゴム新城工場は今年も環境にやさしく育てた稲藁を購入して頂いた。千枚田は急峻な地形で作業効率も悪く、一戸当たりの耕作面積も少なく生産性に乏しく(お金にな

らない)趣味の園芸に近い状況である。横浜ゴム新城工場は市内の大企業であり、新入社員研修、植樹祭などの催しを介しての両者の交流も深く、その実情を充分に察知。大きな応援を頂いている。

棚田の百姓達は、藁を買って頂く横浜ゴム様々と感謝している。

横浜ゴムの皆さん 11.11.7



## ふるさと指導員連絡会議

十一月十五日、豊田市武節町(どんぐり工房)において「中山間地域における農地や農業用施設の保全と地域住民活動の活性化を一層推進するため、指導員の連携と活動の質的向上を図ること」を目的に開催され、原田英史・小山舜二が出席する。

## 講演依頼

豊田市築羽自治区&つくば元気クラブ一行四十名が中山間地における諸問題を抱え、去る、八月二十五日に訪れた。その折「四谷の千枚田」を地域の宝として保存会、お助け隊、棚田つ娘等々、校区が一体となって「むらづくり」に邁進していることを紹介した。この事例を築羽自治区民に呼びかけ、「むらづくり」の一考にしたいと講師依頼があり、十二月十日、四谷の千枚田・連谷地区の「頑張り」を紹介してくる。

## 地域環境整備活動

十一月十三日、連谷お助け隊、保存会、地元協力で与良木地内を中心に市道、生活道の枝打ちなど、住環境整備を行い、地区民から大変喜ばれた。(あいち森と緑づくり事業活用)

## 餅つき大会

十二月十一日(日)、午前十時から十四時まで、ふれあい広場において「収穫感謝祭」〜みんなで感動! 収穫イベント〜と題して餅つき大会を行う。この催しは、保存会、お助け隊、棚田つ娘などの協力で趣向を凝らしたイベントとして装いを新たに開催する。

〜みんな来ておくれん〜

行 平成二十三年十一月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二